

ごあいさつ

本田技研工業株式会社 専務取締役
安全運転普及本部長

小内 弘平



日頃はHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

おかげさまで本年も各領域の方々と連携、協力しながら様々な分野で国内外において活動を展開することができました。これも皆様のおかげによるものと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、元号が変わり、令和の時代を迎えました。私どもの活動はさかのぼる事、1970年、世の中では第一次交通戦争という言葉が生まれ、交通事故死者数が16,765人という過去最多であった年にスタートしました。

モビリティ製造企業の社会的責任として、安全なバイク、クルマを提供するのは当たり前、同時に製品の安全な乗り方、正しい知識も併せてお伝えする「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として活動を継続して参りました。

近年、国内における交通事故死者数は減少傾向であり、昨年はピーク時の約5分の1となる3,532人となりました。これも官民一体で交通事故に真摯に取り組んできた表れかと思うと同時に、交通事故ゼロに向けて益々、活動を充実させていく必要があると思っております。

さらに海外に目を向けますと、昨年末にWHO世界保健機関より発表された世界における2016年時点での最新の交通事故死者数はおよそ135万人であり、この数値は前回発表時から3年間で10万人増えていることを示しています。このことから我々の活動は、国内はもとより海外における活動支援の強化も課題であると考えております。

このような環境のなか、一昨年策定した2030年ビジョンで定めた「すべての人に、『生活の可能性が広がる喜び』を提供する」というステートメント達成に向け、交通安全の取り組みとしては「交通事故ゼロ社会の実現をリードする」ことを掲げ、すべての交通参加者を対象に本年も活動をして参りましたので、いくつかご紹介させていただきます。

はじめに、小学校高学年、中学生を対象とした新たなプログラムの開発です。私どもは交通安全教育を生涯教育と捉え、幼児から高齢者まですべての年齢層に対し、体系化されたプログラムの開発・普及をめざしております。近

年では幼児向けや幼児の保護者向けなど、対象に応じたプログラムを充実させております。本年開発したプログラムは幼児期や小学校入学時点で学んだ交通安全の知識を日常的に実践し、身につけることの大切さを理解いただく内容となっています。この秋より全国の交通安全指導者の方々にご活用いただいております。

また昨今、社会問題として取り上げられることも多い、ペダル踏み間違いなどによる高齢運転者の交通事故を少しでも防ぐために、昨年より開発しておりましたプログラム「みんなで安診(安全運転行動診断)」が完成しました。4月より四輪販売会社向けの指導者養成を実施し、現在、各地区で教室が開催されています。

さらに先進の安全運転支援システムの普及とともに、その効果と機能の限界について正しく理解いただくために、実車を使った、より分かりやすい啓発動画を作成しました。現在「Honda SENSING」の体感試乗会とあわせて全国の四輪販売会社で活用いただいております。

これらのプログラムの開発・普及に加え、新たな教育機器として白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の危険感受性向上の訓練に活用いただけるよう、一昨年発売したHondaライディングシミュレーターをベースにポリスタイプを開発中です。

最後に海外の活動支援につきましては、各国からの要請に応えた人材育成支援、教材、ノウハウの共有を行うとともに、10月にはインストラクター競技大会参加の国、地域の代表者による安全運転責任者会議を開催しました。このなかで、それぞれの取り組みの紹介やワークショップなどを通じて2030年ビジョンに向けた安全運転普及活動の方向性などを確認しました。

今後も海外支援を強化しつつ、国内においては引き続き、行政、関係諸団体、地域の皆様と連携を深めながら交通事故ゼロ社会の実現をめざし活動を継続して参ります。

最後に皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともにHondaへの変わらぬご理解と、ご支援をよろしくお願い申し上げます。